

2005年3月8日

主催 (財) ミズノスポーツ振興会

共催 (財) 日本体育協会

(財) 日本オリンピック委員会

“2004年度 ミズノ スポーツメントール賞” 受賞者決定

(財) ミズノスポーツ振興会では、(財) 日本体育協会、(財) 日本オリンピック委員会と共催で、1990年度より「ミズノ スポーツメントール賞」を制定しています。この賞は、我が国の競技スポーツおよび地域スポーツにおいて選手の強化・育成ならびに地域スポーツの普及・振興に貢献した指導者を顕彰するとともに、優秀な指導者の育成を目的に制定したものです。

3月8日、高輪プリンスホテルで2004年度選考委員会を開き、受賞者を以下の通り決定いたしました。

【ミズノ スポーツメントール賞 ゴールド】 (トロフィー、副賞200万円)

藤田 信之 氏 (グローバル(株)女子陸上競技部監督)

【ミズノ スポーツメントール賞 シルバー】 (トロフィー、副賞各50万円)

田中 孝夫 氏 (鹿屋体育大学教授)

山口 香 氏 ((財) 全日本柔道連盟女子強化委員)

水野 加余子氏 ((財) 京都府体育協会スポーツ科学委員会副委員長)

【ミズノ スポーツメントール賞】 (トロフィー、副賞各20万円)

清水 寛 氏 ((財) 日本ライフル射撃協会医科学部会長)

宮原 厚次 氏 ((財) 日本レスリング協会強化副委員長)

今井 立史 氏 ((財) 山梨県体育協会スポーツ医・科学委員会委員長)

北村 博之 氏 (滋賀県バスケットボール協会理事・強化委員)

針本 佳世子氏 ((財) 兵庫県体育協会なぎなた競技ヘッドコーチ)

定常 博敬 氏 (鳥取県スポーツ少年団指導者協議会会長・県副本部長)

宮崎 章 氏 (大分県スポーツ少年団指導者協議会会長・県副本部長)

詳細は別記の通りです。

(お問合せ先)

(財) ミズノスポーツ振興会 事務局

内橋

TEL. 03 (3233) 7009

ミズノ 東京 広報課

澤井・大澤

TEL. 03 (3233) 7037

ミズノ 大阪 広報課

高橋・土師

TEL. 06 (6614) 8373

記

名 称 : 2004年度 ミズノ スポーツメントール賞

目的及び
選考基準 : 過去継続して我が国における優秀選手の育成に務めた指導者およびその周辺の
指導者、ならびに長年にわたり継続して地域スポーツの振興に尽力した指導者の
顕彰

選考委員 : 委員長 竹田 恆和氏 ((財)日本オリンピック委員会会長)
委員 長沼 健氏 ((財)日本体育協会副会長)
" 泉 正文氏 ((財)日本体育協会常務理事)
" 日比野 弘氏 ((財)日本体育協会常務理事)
" 福田 富昭氏 ((財)日本オリンピック委員会常務理事)
" 田中 英寿氏 ((財)日本オリンピック委員会理事)
" 水野 正人氏 ((財)ミズノスポーツ振興会会長 ミズノ(株)社長)
※順不同

対象者 : 国内外を問わず我が国の競技スポーツの指導者および地域スポーツの指導者

受賞者及び
選考理由 : 藤田 信之(ふじた のぶゆき)氏

(グローバリー(株)女子陸上競技部監督) 64歳

日本レイヨン(株)(現ユニチカ)、(株)ワコール、グローバリー(株)で各陸上競技部の監督を歴任。その間に指導する選手が400mから30kmロードまですべての中距離、長距離種目で日本記録を更新するなど、わが国の女子中、長距離のレベルアップに大いに貢献している。

さらに、04アテネオリンピックでは女子マラソンにおいて、各国の強豪をおさえ野口みずき選手が見事金メダルを獲得した。この快挙は、長年に亘る指導実績が結実したものであり、その指導力は高く評価されている。

※指導している主な選手・チーム

野口みずき 03パリ世界選手権 女子マラソン 2位
04アテネオリンピック 女子マラソン 1位
真木 和 92バルセロナオリンピック 女子10000m 12位
96アトランタオリンピック 女子マラソン 12位

田中 孝夫(たなか たかお)氏 (鹿屋体育大学教授) 56歳

大学卒業後、金子スイミングスクールのコーチに就任し、一貫して選手コースの指導者として従事、数多くのオリンピック・世界選手権出場者を育成し、金子スイミングスクールを日本トップクラブに育てた。その後、鹿屋体育大学の水泳部監督に就任し、日本学生選手権で上位に進出するトップクラスの選手を数多く育成している。中学・高校時には目立つ選手ではなかった柴田亜衣選手を指導し、パンパシフィック選手権、世界選手権の日本代表選手に成長させ、'04アテネオリンピック女子800m自由形において女子自由形史上初となる金メダル獲得に導いた。この快挙は熱意と創意に満ちた指導の賜物であり、その指導力は高く評価されている。

※指導している主な選手・チーム

柴田亜衣 04アテネオリンピック女子800m自由形1位、400m自由形5位

山口 香（やまぐち かおり）氏

（（財）全日本柔道連盟女子強化委員） 40歳

現役時代は52kg級の日本代表選手として、全日本女子体重別選手権大会10連覇、'84世界女子柔道選手権大会優勝、'88ソウルオリンピック第3位など、抜群の実績を残した。その実績に基づく指導力と明るい性格をもって、平成5年からナショナルチームの強化に大きく尽力した。'04アテネオリンピックでは塚田真希選手の指導を担当、選手の特長を伸ばし、世界の強豪選手対策に取り組み金メダルを獲得させる等、その指導力は高く評価されている。人物温厚、研究熱心で選手からも大いに信頼される日本女子柔道の中心的な指導者である。

※指導している主な選手・チーム

日下部基栄 '00シドニーオリンピック 女子57Kg級 3位
谷本 歩実 '01世界選手権 女子63Kg級 3位、'02釜山アジア大会 女子63kg級 1位
'04アテネオリンピック 女子63Kg級 1位
塚田 真希 '03世界選手権 女子78Kg 超級 2位、
'04アテネオリンピック 女子78Kg 超級 1位
福見 友子 '04世界ジュニア選手権48kg級 1位

水野 加余子（みずの かよこ）氏

（（財）京都府体育協会スポーツ科学委員会副委員長） 55歳

テニス選手として、ウィンブルドン・全仏・全米等の世界トーナメント、フェデレーションカップ等に出場し好成績を収め、現在も京都テニススクールにおいて、自らも初心者から上級者まで幅広い層の指導に携わっている。

また、平成元年には、（財）京都府体育協会加盟の競技団体に所属している女性を対象とする「京都女性スポーツの会」を設立。女性のスポーツを推進することで、スポーツの輪が子どもや家族に広がり、明るく・健康な家庭を築き、ひいては地域社会を明るくするという取組みを行っている。この会は、昭和63年に開催された京都国体における競技の運営・進行面での女性の活躍を、国体後にも継続させ、スポーツ振興に結びつけたものであり、現在では、12競技による「京都女性スポーツフェスティバル」を毎年開催するとともに、指導者の研修会を実施するなど、他県に例を見ないユニークな取組みにより、地域のスポーツ振興に大きく貢献している。

清水 寛（しみず ひろし）氏

（（財）日本ライフル射撃協会医科学部会長） 65歳

かつて国体選手として活躍、選手としての経験も豊富であり、現在は日本ライフル射撃協会医科学部会長としてドーピング対策、メディカルチェック、健康管理に携わり、監督、コーチ、選手から深い信頼を得ている。精神科医としての立場から射撃競技には特に重要なメンタルケアを行うとともに、太極拳を応用した心身の鍛練法などを導入し選手の心・技・体を向上させる医科学的サポートを実践しライフル射撃の技術向上に貢献している。

※指導している主な選手・チーム

'00シドニーオリンピック 代表チーム、'04アテネオリンピック 代表チーム
'04第10回アジア射撃選手権大会 代表チーム

宮原 厚次（みやはら あつじ）氏

（（財）日本レスリング協会強化副委員長） 46歳

グレコローマンスタイル 52Kg 級の選手として活躍、'84 ロサンゼルスオリンピックでは金メダル、'88 ソウルオリンピックでは銀メダルを獲得している。競技生活終了後は自衛隊体育学校レスリング班のコーチ・監督として後進の指導に携わるとともに、日本協会の強化コーチとしてバルセロナ、アトランタオリンピックに参加するなどトップアスリートの活躍を支えている。'04 アテネオリンピックでは同班所属の井上謙二選手の指導にあたり、銅メダルの獲得に大きく貢献している。

また、昨年開催された埼玉国体では同班所属の選手が全階級（7 階級）に出場、すべての階級において見事優勝を果たし、国体での全階級制覇という快挙を成し遂げた。これも偏に競技実績に基づく卓越した指導力によるものであり、指導者として高く評価されている。

※指導している主な選手・チーム

井上 謙二 '04 アテネオリンピック フリースタイル 60Kg 級 3位

笹本 睦 '04 アテネオリンピック グレコローマンスタイル 60Kg 級 5位

坂本日登美 '00、'01 世界選手権

今井 立史（いまい りっし）氏

（（財）山梨県体育協会スポーツ医・科学委員会委員長） 64歳

スポーツドクター（整形外科）として、地域住民及びスポーツ選手のスポーツ傷害の治療・リハビリ、医・科学的指導・サポートに熱心にあたり、地域に根ざしたスポーツドクターとして活躍している。また、県民スポーツ事業団研究委員としても県民の体力測定及び現場でのスポーツ医学相談に携わっている。

さらに（財）山梨県体育協会理事、スポーツ医科学委員会委員長として、競技団体ごとに定期的に医・科学サポートを展開するとともに、現在もアンチ・ドーピングなどの新しい課題に取組み、国体帯同ドクターとして毎年国民体育大会へ参加し、国体選手への医・科学的サポートに大きく寄与している。また、山梨学院大学陸上部ドクター、J2 ヴァンフォーレ甲府（サッカー）のチームドクターとして選手の健康管理に関与するなど、幅広く県民のスポーツ振興及び競技力の向上に貢献している。

北村 博之（きたむら ひろゆき）氏

（滋賀県バスケットボール協会理事・強化委員） 53歳

国民体育大会の滋賀県帯同ドクターとして、平成6年の第49回愛知国体から連続11回参加するとともに、小・中・高校生を始め、実業団、家庭婦人、クラブ、日本リーグ等、バスケットボールの幅広い競技者を対象に選手が安心してプレーに専念できるよう救護活動を行っている。

また、スポーツ少年団、各競技別指導者など地域のスポーツ団体を対象に、スポーツ障害防止等について講演を行い事故防止に努めるとともに、滋賀県バスケットボール協会の強化委員として、中学・高校選抜チームの医科学サポートを行っている。昭和63年には、バスケットボールクラブチーム「膳所クラブ」を創設し、自ら選手及びコーチとして活躍、現在は同チームの代表として活動し、これまでに多くの選手を育成するなど、滋賀県のスポーツの普及・振興に大きく貢献している。

針本 佳世子（はりもと かよこ）氏

（（財）兵庫県体育協会なぎなた競技ヘッドコーチ） 58歳

昭和50年（財）修武館なぎなた指導員に就任して以来、今日まで生涯スポーツ・生涯武道の基本方針のもとに、幼少年から熟年者に至るまで一貫して選手の育成に努め、国民体育大会、都道府県対抗なぎなた大会等の全国規模の各種大会に兵庫県代表選手を送り出し、優勝者、上位入賞者を数多く輩出している。

また、現在も自ら選手とともに稽古に励み、実践を通して指導を行っており、卓越した指導力、行動力は多くのなぎなた関係者が認めるところである。なぎなた指導にあたっては、技術の向上はもとより、それぞれの人間形成に重きをおいた指導を行い、常に温情ある指導で多くの会員の人望を集め、日本の伝統文化であるなぎなたの後継者の育成及び競技の普及に多大な貢献をしている。

定常 博敬（さだつね ひろたか）氏

（鳥取県スポーツ少年団指導者協議会会長・県副本部長） 73歳

スポーツ少年団の理念のもと、昭和45年にスポーツ少年団育成指導者となり、「つばめスポーツ少年団」を立ち上げ、野球を通じた青少年の健全育成に努めた。その後、現在まで鳥取県スポーツ少年団指導者協議会会長、同スポーツ少年団副本部長として、長年にわたりスポーツ少年団の育成や活動の活性化に努めている。具体的には、認定育成員として、自ら認定員養成講習会の講師を務め、鳥取県のスポーツ少年団指導者を大幅に増加させるなど地域のスポーツ少年団指導者の育成に尽力するとともに、組織の整備・充実に大きく貢献している。さらに、琴浦町体育協会理事長、体育指導委員としても優れたリーダーシップを発揮し、地域スポーツの普及振興に努めるなど、その功績は顕著である。

宮崎 章（みやざき あきら）氏

（大分県スポーツ少年団指導者協議会会長・県副本部長） 69歳

昭和43年に滝尾サッカースポーツ少年団を創設し、以来今日まで37年間、代表指導者として単位団の育成とともに、少年スポーツの指導を行っている。子どもたちにサッカーを通じてスポーツの素晴らしさを伝えることを第一義として、昨今の勝敗偏重傾向にある活動の在り方に疑問を呈し、少年団の支援組織である育成母集団及び青少年リーダー等と連携をとり共通認識を持った上で、少年団理念に基づいた単位団運営を貫き活動している。また、大分県スポーツ少年団常任委員・副本部長、同指導者協議会会長などを歴任し、大分県スポーツ少年団指導者協議会組織のより一層の整備拡充に努めたほか、少年団の望ましい活動のあり方について普及し、青少年の健全育成のために尽力している功績は極めて大である。

以上